EIICHI TSUJINO

辻野 榮一

Be Factory

2023.7

辻野　榮一 | EIICHI TSUJIINO

※辻は点が一点だけのもの

1983年　東京芸術大学美術学部彫刻科卒業

| 個展 |

2010年　Neue Galerie Landshut (ドイツ)
2011年　坂出市民美術館 (香川)
2013年　B-gallery (東京)
2015年　ギャルリー志門 (東京)
2016年　かまどホール (香川)
　　内子町町屋資料館 (愛媛)
2018年　ETstudio (香川)
2019年　DOKA (東京)
2021年　ツム・アインホルン (東京)
2022年　ことなみ未来館 (香川)

計42 回開催

| グループ展 | ※2000年以降

2011年　ASIA TOP GALLERY HOTEL ART FAIR (香港)
2013年　+7 exhibition (上海)
2014年　第4回「ドローイングとは何か」展 大賞受賞
　　Art Apart Fair (シンガポール)
2015年　日韓交流美術展 (シルクギャラリー /ソウル)
2016年　韓日現代美術展 駐日韓国文化院 (東京)
2017年　クロスポイント (香川県立ミュージアム)
　　Sincerity 2017 (カンヌンミュージアム/韓国)
2020年　つじのつじののふぁみりぃ展（かまどホール/香川)
2023年　日本・南アフリカ美術交流展（かまどホール /香川)

Be Factory

表 現 に つ い て

私が、木や紙をかたちにするテーマは動植物です。人間がまだ存在していない頃の太古の原風景をイメージして、生命が誕生した海や、動物の鳴き声が飛び交う熱帯雨林の地でひっそりと息づく生きものたちを創造しています。

現代の便利さや合理性を追求したコンピュータ社会の技術では、仮想空間を作り上げることが容易になりました。しかし、私の造る彫刻は木の肌触りや温もり、クスノキの香気も感じられる実態です。自然から学び、咀嚼して、そこに生命力や静なる躍動感を与えることで新たな生き物に生まれ変わらせます。
生物多様性の起源を探り、私にとってのパラダイスを夢想しながら日々の制作を楽しんでいます。

焦がす

私の表現技法の大きな特徴である「焦がす」という行為は、素材を際立たせるひとつの手法と考えます。作品が彫刻的になってきた頃から、世に出ている他の木彫との差別化を図るために人と違う表現手法はないものかと制作スタイルを模索していました。その中で木を切削したり研磨したりすることで使用していたディスクグラインダーがありました。その刃を鉄切断用の薄い刃に替え、高速回転させながら木の表面を縦に押し付け、回転の摩擦熱で焦がす手法を見つけました。

その後、電熱工具やグラインダー等を使用して彫刻では木を、ドローイングでは紙を焦がしています。木の堅さや柔らかさ、繊維構造等によって焦げ方も変わります。表面には、焦げ色が付くだけでなく細かな凹凸も現れます。面を焦がすことと細かなマチエールで木の表面を覆っていくことを私の制作スタイルとしました。

［ Fillis フィリス (L) ］2011 樟 / H61×W11×D29(cm)

［ Fillis フィリス (M) ］2011 樟 / H41×W10×D18.5(cm)　［ Fillis フィリス (S) ］2011 樟 / H32×W8×D15.5(cm)

［ Bramonti　ブラモンティ ］2015

樟、ブナ /H55×W48.5×D65(cm)

［ 侵略の爪 ］2022

樟、ムクノキ / H150×W45×D51（cm）

［ Enlomasis エンロマシス ］

H88×W67×D60(㎝) / 樟

［ Stravinas　ストラビナス ］

H155×W150×D54（㎝）/ スプルース、ブナ

［ Urocho　ウローチョ ］

H54×W30×D23(㎝) / 樟、ヒバ、紫檀（台座）

香川にて